

2020年 9月 3日

大分市教育長 三浦 享二 殿

日本共産党大分市議団

福間 健治

斉藤 由美子

岩崎 貴博

少人数学級の実施を求める要望書

新型コロナウイルス感染症対策として、全国的な一斉休校が急ぎよ実施されることとなり、年度末の大事な節目を迎えるはずだった子どもたちをはじめ、教職員や関係者には、多くの犠牲や負担が強いられることとなった。

学校は再開されたが、感染拡大の懸念のみならず、熱中症などへの対応・対策も加わっており、今後、子どもたちが安心して健康に学び、不安を受け止められる、手厚い教育環境が求められている。

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議は、「新しい生活様式」として、「身体的距離の確保」を呼びかけており、「人との間隔はできるだけ2メートル（最低1メートル）空けること」を基本としているが、現在の学級規模では、2メートルはおろか、1メートル空けることも不可能な状況であり、これまで言われてきた「3密を避ける」対策との矛盾も生じている。

新型コロナウイルス感染症の広がりや、現在も予断を許さない状況にあり、教育現場での対策と改善は喫緊の課題となっている。

今後、感染防止対策を徹底するため、3密を避け、また、一人ひとりの子どもの成長と発達を保障し、きめ細やかな教育を推進するために、必要な教職員の加配と財政措置を国の責任で行い、少人数学級の実施を求めるものである。

以上